

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/04/11号

マーケットエッジ株式会社 小菅努



【現状確認】



(出所) Refinitivよりマーケットエッジ作成

備蓄放出と中国需要不安で調整売り優勢

NY原油先物相場は、1バレル=98ドル前半まで下落する展開になった。国際エネルギー機関（IEA）が1億2,000万バレルの石油備蓄の共同放出で合意したことが嫌気されている。また、中国で新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化していることもネガティブ。ロシア産の供給不安で押し目買いが入る場面も見られたが、100ドルの節目を完全に下抜いており、3月15日以来の安値を更新した。

IEAは4月1日に石油備蓄の共同放出で合意していたが、7日に国別の割り振りも決まった。3月1日にも6,000万バレルの備蓄放出が合意されているため、これで合計1億8,000万バレルの規模に達している。一時的な備蓄放出に原油需給・価格環境の安定化を促す効果があるのかは議論が割れているが、いずれにしても過去最大規模の備蓄放出で短期的な需給ショック相殺を目指す動きが活発化していることが、期近限月の上値を圧迫した。ただ、期先限月では中長期的な需給ひっ迫見通しの織り込みが続いており、底固く推移している。限月間で地合の違いが顕著になった。

米エネルギー情報局（EIA）発表の米石油在庫（4月1日時点）は、原油が前週比242万バレル増、ガソリンが204万バレル減、石油精製品が77万バレル増となった。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

原油ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

【展望】

中国のコロナ感染状況に要注意も、需給ひっ迫で底固さを再確認

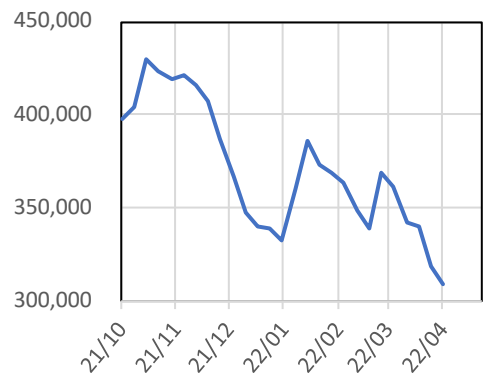
中国の新型コロナウイルスの感染拡大が続いているが、国際原油需給ひっ迫見通しに変化はなく、徐々に下値を固める展開になろう。ロシア軍がウクライナの民間人を「大量虐殺」した疑いから国際世論は一段と強い対ロシア制裁を求めており、欧州ではロシア産原油調達量を早期になくすための取り組みが活発化している。天然ガスに関してはロシア産依存度を早急に低下させることが難しいため、石炭と原油のロシア産輸入を先行して止めことで、ロシアの戦費調達にダメージを与えることが目指されている。

ロシア通貨ルーブルが急伸していることで、対ロシア制裁が十分に機能していないとの見方もあるが、少なくとも米国やカナダはロシア産原油に対して禁輸措置を導入しており、欧州も年内には大部分の輸入が止まる見通し。そのロシア産の代替供給の見通しが立たないのであれば、原油高で増産や需要抑制を促す必要性が維持される。

中国では、上海市でロックダウン（都市封鎖）を導入したものの、十分な効果をあげることができていない。ロックダウンの長期化や他都市への広がりが見られると、輸送用エネルギー需要に大きなダメージが生じる可能性がある。ただ、現状では中国以外の主要国は「ゼロ・コロナ」政策を採用しておらず、国際原油需要環境・見通しに対する影響は限定されよう。従来通りに、新型コロナウイルスの感染拡大で売られた局面では、物色妙味が維持される。支持線95.00ドル、90.00ドルでの下げ止まりの有無が打診される見通し。

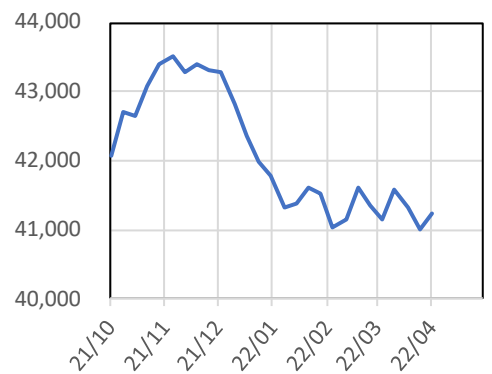
12日には石油輸出国機構（OPEC）、13日にはIEAの月報が発表されることがイベントリスクになる。

(枚) NY原油先物 大口投機筋ネット建玉



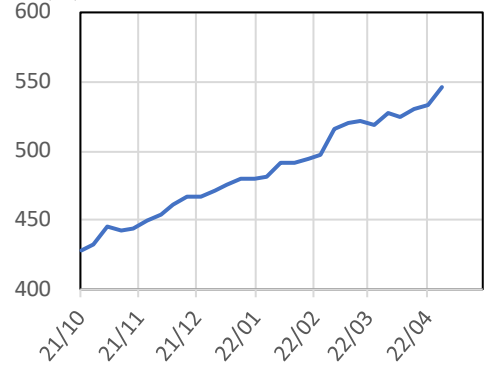
(出所) CFTCよりマーケットエッジ作成

(万バレル) 米原油在庫



(出所) EIAよりマーケットエッジ作成

(基) 米石油リグ稼働数



(出所) Baker Hughesよりマーケットエッジ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所がマーケットエッジ株式会社から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、マーケットエッジ株式会社に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、マーケットエッジ株式会社（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 マーケットエッジ株式会社（Marketedge Co., Ltd.）

【所在地】 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-18-1（古川ビル4F）

【URL】 <https://www.marketedge.co.jp/>

【電話】 TEL : 03-6661-9498 【E-mail】 info@marketedge.co.jp

小菅努（こすげ・つとむ）プロフィール

1976年千葉県生まれ。筑波大学社会学類卒。商品先物会社の営業本部、ニューヨーク事務所駐在、調査部門責任者を経て、2016年にマーケットエッジ株式会社を設立、代表に就任。金融機関、商社、事業法人、メディア向けのレポート配信、講演、執筆などを行う。

最新情報は
ツイッターで

